



「共生社会の実現に向けた、知的障害者等への生涯学習プログラムの実践研究」
～大学との連携による「インクルーシブな学び」創成の試み～

ゆたかカレッジについて

「ゆたかカレッジ」とは、障がいのある青年（基本的に18歳以降）たちが、社会で活躍する力をつけるための4年制の「福祉型カレッジ」という学びの場になっている。法制度上は障がい者総合支援法にもとづく自立訓練（生活訓練）事業と就労移行支援事業を組み合わせた多機能型事業所。

【ゆたかカレッジの理念】

当社は、すべての人の学びの機会の創造を通じて社会に貢献する。

【ゆたかカレッジの目標】

- ・ 障害者の個々のニーズに応じた魅力ある高等教育の機会の保障
- ・ すべての人が共に学び、共に働き、共に暮らすインクルーシブ社会の実現
- ・ 障害者に対する差別と偏見のない社会の創造
- ・ 障害者とその家族のより豊かな暮らしの実現
- ・ 社会貢献・社会変革の活動を通じた社員の働きがいの創出

実施体制と学習プログラムの概要

ゆたかカレッジ横浜キャンパス

連携・協働

相模女子大学

連携協議会（年3回実施、天候不良により1回中止）

大学教授、横浜市教育委員会、横浜市健康福祉局、特別支援学校、療育センター、神奈川障害者職業センター

インクルーシブな学びのための学習プログラム

A: インクルーシブ・ゼミ

相模女子大学子育て支援センター事業として大学教員とカレッジ教員が合同で行うゼミ。カレッジの学生4人と相模女子大学6名が双方に自分自身をふりかえり、自分のことを理解してもらおうとする当事者研究として進めた。全7回実施した。

B: インクルーシブ・出前講座

相模女子大学の教員（哲学、心理学、福祉学等）が横浜キャンパスに出向いて授業を行う。知的障害者等に興味関心を持ってもらえるような内容を準備し、講義形式やワークショップ形式で授業を行った。4名の教員らが、各テーマで計10回実施した。

C: インクルーシブ・キャンパス講座（さがみアカデミー）

発達障害者等の突出した興味・関心に着目し、彼らに共通して人気のあるテーマによる講座を年間6回設定した。障害の有無に関係なく一般若者に向けて広く参加者を募ることで、参加者がともに学ぶ機会とした。

共生社会の実現 “共に学ぶことで共に変わった”

実践研究の成果と課題

- ・ カレッジの学生は同世代とのコミュニケーションがスムーズになってきた。
- ・ 相模女子大学生は、知的障害や発達障害についての理解が深まってきた。
- ・ 双方とも自分の良さや苦手などを発見し、自分のことを他者に理解してもらおうとする態度が育ってきた。
- ・ 一般の大学教員等が知的障害者に対して理解を深め、知的障害者の学びの可能性を実感できた。
- ・ さがみアカデミーには、公募により一定の参加者があった。余暇支援としての学びの機会は必要であり、参加者の満足度は高かった。